

大学スポーツにおけるドーピング防止活動の実態
—知っていて当たり前ドーピング—

龍谷大学 松畑ゼミ A

○沖田 和馬 橋岡 聖人 畠山 朋哉 林 未紅
南 辰樹 森山 僚紀 山口 滉太 山辺 蓮

1. はじめに

近年、ニュースや新聞等でアスリートのドーピング問題を耳にする機会がふえているのではないだろうか。それは、ドーピング検査が複雑であることや、知識の少なさが原因の一つにあると思われる。

2018年6月13日、国会で「スポーツにおけるドーピングの防止活動の推進に関する法律案」が可決され、同月20日に公布された。この機会に、ドーピングについての正しい知識を深めること、私たち大学生に被害を及ぼす可能性のある薬や飲み物について学ぶこと、自分たちなりの防止活動の方法を見つけること、そしてドーピングが身近な問題であるを知ってもらうことを目的として、大学スポーツのドーピングをテーマに設定した。

ア、私たちのチームは、全員競技スポーツ経験者であり、ラグビー、ボクシング、サッカー、武道など様々なジャンルでルールも異なる者が集まった為、個々人にドーピング対策についての不信感があった。ドーピング使用を認めれば問題は減るのはいいか、スポーツを平等に行う為にも必要、いつも飲んでいるサプリメントは検査に引っ掛からないかといった不安、ドーピングの基準とは、興味がないから、選手生命が終わってしまうから等、それぞれ個々人が持っている疑問について、様々な方法で解決策を考えることとした。

イ、研究の目標は、大学生にドーピングについての理解を広めることである。そして、誰に聞いてもドーピングについて明確に答えられるように、大学スポーツの教育の一環として取り組んでほしいと考えている。スポーツをするからには、フェアプレーの精神を忘れることなく努力で勝ち進んでほしい。そのために、研究の目標を達成するための策を考え、大学内と狭い環境であるが実現させたいと考える。

2. 研究の方法・結果

(1) アンチ・ドーピングに対する意識調査

龍谷大学の学生がドーピングについてどの程度知っているのかに関する調査を実施

した。調査項目は、学年、性別、ドーピングの知識、知識の情報源等を設定した。この調査は、龍谷大学スポーツサイエンスコースにおける現代スポーツ論の受講者計 82 名に協力して頂き、アンチ・ドーピングに対する意識調査を実施した。

調査の結果は、ドーピング禁止薬物使用問題について、少し関心があると答えた学生が 47 名と半数以上であった。また、ドーピング検査の方針や手順を学校の保健体育授業やメディア等で少し情報を得ていることが明らかとなった。高等学校学習指導要領の保健体育における体育理論の中で、2009 年より追加された「オリンピックムーブメントとドーピング」では、学校現場での円滑なアンチ・ドーピング教育の実施や、「フェア」という観点からスポーツを捉え、アンチ・ドーピングの理解を深めることを目標として掲げているが、調査結果からは、実際の教育現場ではアンチ・ドーピング教育に関する授業を行っている地域が少ないことが窺えた。

(2)ドーピング検査を受けた経験のある大学生への調査

実際に検査を受けたことのある学生に、ドーピング検査に何か問題はないのか等、体験談を聞いてみたところ、検査は抜き打ちで行われるが、ドーピングの説明や注意などは行われず、レッドブルは引っ掛かるらしいといった事実かどうか不明確なことが噂されていること、また、当該学生が実施している競技では、全員がドーピング検査を受けるのではなく準決勝進出者のみが検査を受けることになっていた。

これでは、全員がドーピングをしていないとは立証できないと考えられる。もし、自分が負けた相手で準決勝には出場できなかったものの観客が驚くような試合をして、検査が実施されていないため発覚していないが実はドーピングをしていたとなると自分自身はどう思うだろうか。ドーピング検査は、試合に出場する者全員が行う事でフェアプレーが成立すると考えられる。

(3)一ア. 世界アンチ・ドーピング規程 禁止表国際基準 PROHIBITED LIST の 2018 年版を見ると、数多くの禁止薬物があることがわかった。まず常に禁止される薬物は、無承認物質・蛋白同化薬・ペプチドホルモン、成長因子、関連物質および模倣物質・ベータ 2 作用薬・ホルモン調節薬および代謝調節薬・利尿薬および隠蔽薬等がある。これら一つ一つに多くの薬の名前が書かれている。例えば、蛋白同化薬の中にもおよそ 79 もの物質がある。蛋白同化薬とは、おもにステロイドと呼ばれる物質である。次に禁止方法は、血液および血液成分の操作・化学的および物理的操作・遺伝子ドーピングがあり、これらにも一つ一つ禁止する事項がある。又、常に禁止される物質と方法以外にも、競技会(時)に禁止される物質と方法や、特定競技において禁止される物質等がある。さらに、サプリメントによるドーピング検査で陽性となる可能性もある。

(3)ーイ．ドーピング違反に対する罰則

一回目の違反では、二年間の競技出場停止となる。二回目の違反では、競技からの生涯、追放される。また、注意事項として禁止薬物の供給、投与、不正取引などのドーピング違反は極めて重大な違反と見なされ、上述の罰則よりもさらに重い罰則が科される。しかし、ある種目において違反したものに対して科せられた罰則は、他のすべての種目にも適用される。

(3)ーウ．病気の治療目的に、エフェドリン、フェニルプロパノールアミン、プソイドエフェドリン、カフェイン、キニーネなどを服用し陽性になった場合、一回目の違反では、最長三か月間の競技出場停止になる。二回目の違反では、二年間の競技出場停止になる。三回目の違反では、競技からの生涯、追放される。

以上のア・イ・ウを調査した結果、アンチ・ドーピング規程の禁止薬物は、一年に一回更新されるが、英語から日本語版に翻訳されるのが遅く、また、見ただけでは理解しにくく、サプリメントや薬を買って一つ一つ確認するのは難しいと考えられる。

そのため、現在はスマートフォンが普及しているので、アプリや機能で写真を撮れば、このサプリメントがドーピングに違反するものであるか一目でわかるような対策を行えばいいのではないかと考える。

3．日本版 NCAA の開設

(1)アメリカでは、全米大学体育協会（National Collegiate Athletic Association：略 NCAA）が大学スポーツの連絡調整、管理など、さまざまな運営支援を行っている。このような組織を日本にも取り入れようと現在検討がなされている最中であるが、日本版 NCAA が取り組むことは、大学スポーツの価値の向上である。しかし、現在検討されている案には、ドーピングについてはほとんど触れられておらず、大学スポーツとドーピングは接点がないとされているようである。

そこで私たちは、大学スポーツの価値を向上させることが目的であれば、日本版 NCAA においてもドーピング対策を入れなければ、大学生のうっかりドーピング等が減る事はないのではないかと考えた。また、大学スポーツでドーピングが発覚すれば大学の価値も下がる事につながり、競技にも影響が出ると考えられる。学生のうちからドーピングについて知識をつけ、プロとなっても余裕を持って活躍できる選手となる事を期待している。

(2)日本とアメリカでは大学スポーツで得られる収入で何億もの差がついている現状にある。また、日本では競技者をトップとして、サポートする人・組織は、競技者の下で一元化されている。一方で、アメリカではマーケティング・コミュニケーション

とビジネスアドミニストレーションと二系統が競技を中心として行われている。日本とアメリカでは大学スポーツの盛り上がりや費用も桁違いである。日本でも、大学スポーツの大会が行われるが、観客席がない、選手ルームもない、グッズもないと学生の大会だからと粗末な扱いを受けているといえる。

そこで、日本版 NCAA が開設された場合、大学スポーツをメディアはもっと取り上げ、試合が行われる場所は観客席があり、選手待機室も完備され周りには売店を置き遊び感覚で来てもらい、また試合見たいと思ってもらい徐々に観客も収入も増やせると考えられる。注目を浴びる事で一人の選手としての自覚をもってもらおうとともに、日本版 NCAA は、収入をドーピング検査代としてサポートをするべきであると考えた。

4.まとめ

大学スポーツのドーピングは、知識の少なさから起きている問題である。そこで、学生の教育でドーピングについて触れる事を条件とし、一年に一回どこの大学でも講習会を開き、特に体育会所属の人は必ず出席を条件とすることで知識は現在より身につくと考えられる。

2020年には東京オリンピック・パラリンピックが開催され、現在学生の選手もプロとして活躍しているかもしれない。その時に、海外から日本のドーピング対策はどうなっているのか調査され、大学生のうちから正確な知識を身に付けているのかと尊敬される日本でありたいと私たちは考える。

<参考文献>

- ・文部科学省 スポーツ産学連携＝日本版 NCAA
http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2016/05/25/1370914_05_1.pdf
- ・日本アンチ・ドーピング機構
<https://www.playtruejapan.org/>
- ・禁止表国際基準
https://www.playtruejapan.org/downloads/prohabited_list/2016_ProhibitedList_JP_revised20160108.pdf_2017
- ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 体育編
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2011/01/19/1282000_7.pdf